

いのちと地域を守る

防災・減災のページ

●弱者避難手伝う 蔵王山の噴火で火山灰がどこまで広がるかなどについて分かり、火山災害の危険性を実感した。実際に起きたらお年寄りや子どもの避難を手伝いたい。自分から行動することが大事。家族で避難時の集合場所や連絡方法を決めた＝井上東哉さん(17)

●備蓄し生き抜く 噴火は命に関わる。自分と周りの人の命を守りたい。助言者の「3日間は自分で生きろ」という言葉を実現できるよう、家族に頼りがちな部分を見直し、自分から進んで行動したい。非常食の備蓄を増やし、ペットの犬猫用も準備する＝大橋陽花さん(17)

●非常袋を見直す 枕元に非常食や懐中電灯、ラジオなどを袋にまとめて置いている。助言者の話を聞き、噴火がいかに危険か分かった。発生後の3日間を持ちこたえるよう水や食料を増やし、モバイルバッテリーも追加するなど備えを見直したい＝山崎将輝さん(17)

●川の増水が心配 祖父母の家が(蔵王連峰の) 不忘山にあり、噴火で降ってきた火山灰を吸うとどうなるかが気になった。自宅は川が近く、雨が降ると増水が心配。備蓄食料を用意しているほか、災害時にはどう避難するかを家族と話し合っている＝日下真理奈さん(17)

●家族で役割分担 家族で災害時に誰が何をするか、役割分担を決めている。私は小さい弟と妹の面倒を見る担当で、どう避難させるかなども話し合っている。噴火だけでなく自然災害はいつ起こるか分からないので、防災を意識して生活しようと思う＝畑中琉南さん(17)

●死者多数に衝撃 蔵王町内に住んでおり、冬に蔵王山が噴火したら融雪型泥流がどのぐらいの速さで来るか気掛かり。過去に火山災害を体験した助言者の話から、多くの人が亡くなったケースもあったと知り驚いた。災害に備える意識を持とうと思った＝鈴木琴乃さん(17)

降雨で泥流や土石流

伊豆諸島にある三宅島(東京都)の雄山が1983年10月に噴火した時、中学2年だった。山の割れ目から溶岩流が3方向に流れ出た。自宅のあった阿古地区では溶岩流で全ての住宅や店舗が埋没した。(地下水がマグマと直接触れる) マグマ水蒸気爆発も起きて地が一つなくなった。2000年7月の噴火は火山灰が多く、灰の中を何度も避難した。電線が降灰の影響を受け、頻繁に停電になった。雨が降る

東日本大震災をはじめとする自然災害の被災体験を振り返り、防災の教訓や課題を考えてみませんか。町内会や学校、職場など少人数の集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室 022(211)1591。

火山性地震が近年増

お釜は蔵王山の噴火でできた火口湖だ。最後の噴火は約100年前。2012年から火山性の地震が増え、活火山の認識を新たにした。18年には噴火警戒レベル2となり、火口周辺に入山規制がかかった。想定では降雪期のマグマ噴火に伴う融雪型火山泥流が最も大きい被害になる。例えば、松川沿いなら家が流される可能性がある。火山灰はマグマ噴火で降灰量が1000万立方メートル。風向きによっては蔵王高や隣の村田町、白石市にも飛んでくる。1センチ積もると雨が降ると泥のようになり、車が走りにくくなる。

第101回巡回ワークショップ @宮城・蔵王高



監修 減災・復興支援機構 インフォrmation

異変を感じたらすぐ避難を始めできるだけ火口から遠くへ

噴火に遭遇したら岩陰などに隠れて噴石から身を守る

3人の助言者はオンラインで参加。1977年と2000年に北海道の有珠山噴火を経験した洞爺にぎわいネットワークの永井信久副理事長(58)は77年に泥流による犠牲者が出た教訓から、地元の洞爺湖温泉

大型モニターを使い、火山災害の経験者がオンラインで参加した「むすび塾」は6月24日、蔵王高

@宮城・蔵王高



町内に住む鈴木琴乃さん(17)が「融雪型火山泥流の速さはどれくらいか」と質問。大本さんは「時速60キロと自動車同様に速く、勢いも強い。安全に避難するには防災無線や緊急速報メールを聞き漏らさないことが大切」と答えた。

山崎将輝さん(17)が「火山灰が降ったら何に気を付けるべきか」と尋ねると、「灰に噴石が混じることもあり、頭を守ってほしい」と強調した。

大本さんは冬に積もった雪がマグマで溶けて流れ出す「融雪型火山泥流」が想定されることを説明。蔵王高まで早くて1時間で到達する可能性があるほか、火山灰の被害にも触れた。

街を守る砂防ダムや水路が造られたことを紹介し、観光客も来る」と語った。「住民の防災意識が変わり、2000年は被害を最下加奈代表(5)も出身地の

蔵王山の噴火被害想定

河北新報社は6月24日、通算101回目の巡回ワークショップ「むすび塾」を宮城県蔵王町の蔵王高で開いた。3年生6人が参加し、町で防災を担当する大本裕樹総務課長補佐(46)から蔵王山(蔵王連峰)の噴火被害想定を教わった。助言者3人からは北海道有珠山の噴火など過去の火山災害の教訓を学び、備えへの決意を新たにした。

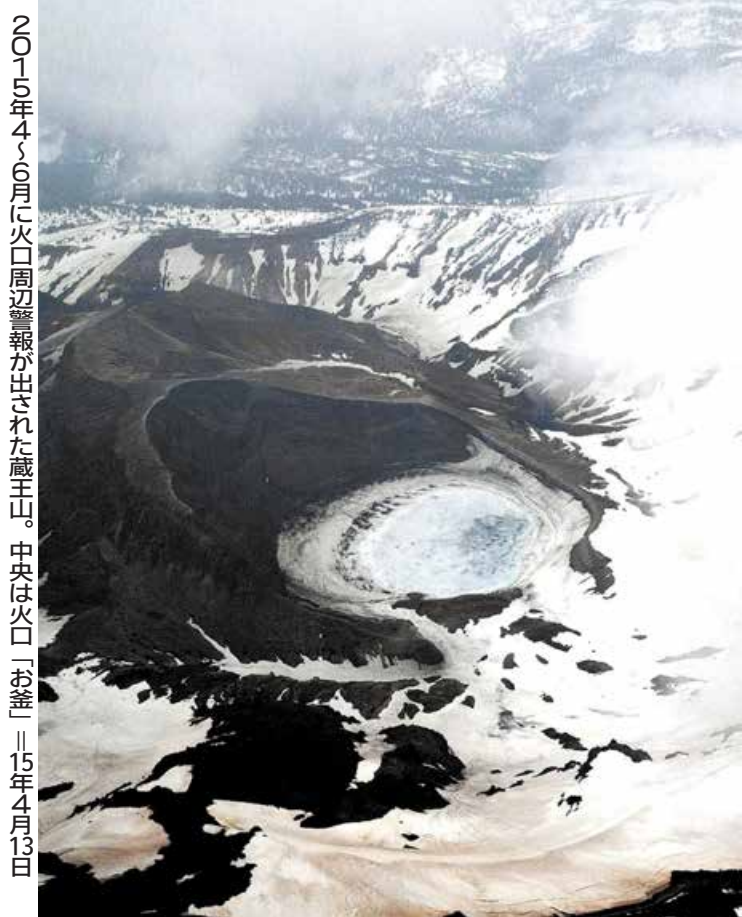
むすび塾

各地の教訓 学んで備え

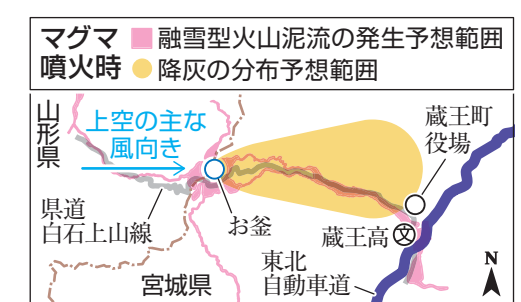
火山泥流45分で到達

マグマ噴火冬は融雪伴う

蔵王山の噴火被害想定は、2015年に東北地方整備局が策定した。火口はマグマ噴火が「お釜付近」、地下的の水がマグマで間接的に



2015年4～6月に火口周辺警戒が出された蔵王山。中央は火口「お釜」15年4月13日



熱せられて爆発的に噴出する水蒸気爆発は「馬の背」・5センチ、水蒸気爆発の場合は1・2センチとなる。火山灰の降灰範囲は堆積場、泥流は約45～50分で達し、1時間半で蔵王高付近に達するとみられる。

お釜の火口壁が破壊し、湖水が流出して火山泥流が発生する可能性もある。

生徒たちは「火山災害の経験者の話を聞いてよかった。一日ころから災害に

備えたい」と感想を述べた。大本さんは「学んだことが、より多くの命を

守ることにつながる」と呼び掛けた。



真っ赤な噴石に恐怖

北海道・洞爺湖畔の有珠山が1977年8月に噴火をした時は中学3年だった。震度5の地震が多発し、何だろうと思っていたら夜に山頂から噴火。大量の火山灰や軽石が降る中、避難した。落ちて割れた噴石の断面が、真っ赤だったことが忘れられない。

風向きの関係で、火山灰は約250センチ離れた知床まで飛んだ。火山灰が急斜面に積もると、少しの雨でも泥流が発生した。



噴火情報 確実に得て



2000年3月は山麓の100余りの火口から噴火した。地震が頻発した段階で、全住民が町から避難。噴石が降ったところは、建物の屋根や壁が穴だらけになった。77年の体験から防災や復興を意識するようになり、それが2000年に役立った。皆さんはこれから社会を担う立場だ。災害の当事者になるかもしれないという自覚を持ち、3日間は自分で何とか生き抜いてほしい。

雲仙では降雨のたびに火山噴出物が土石流となり、住宅2000棟が被害を受けた。火山の噴火は、天候などの影響で麓からは発生が分からない場合があり、注意してほしい。噴火情報を確実に入手する方法を考えておくべきだ。川に少しずつ火山灰や噴石が堆積すると川底が上がり、大雨時に水害が起きやすくなる。火山災害は長期化に加え、被害が連鎖する点でも厄介だ。